

# 営業概況

## 計測事業

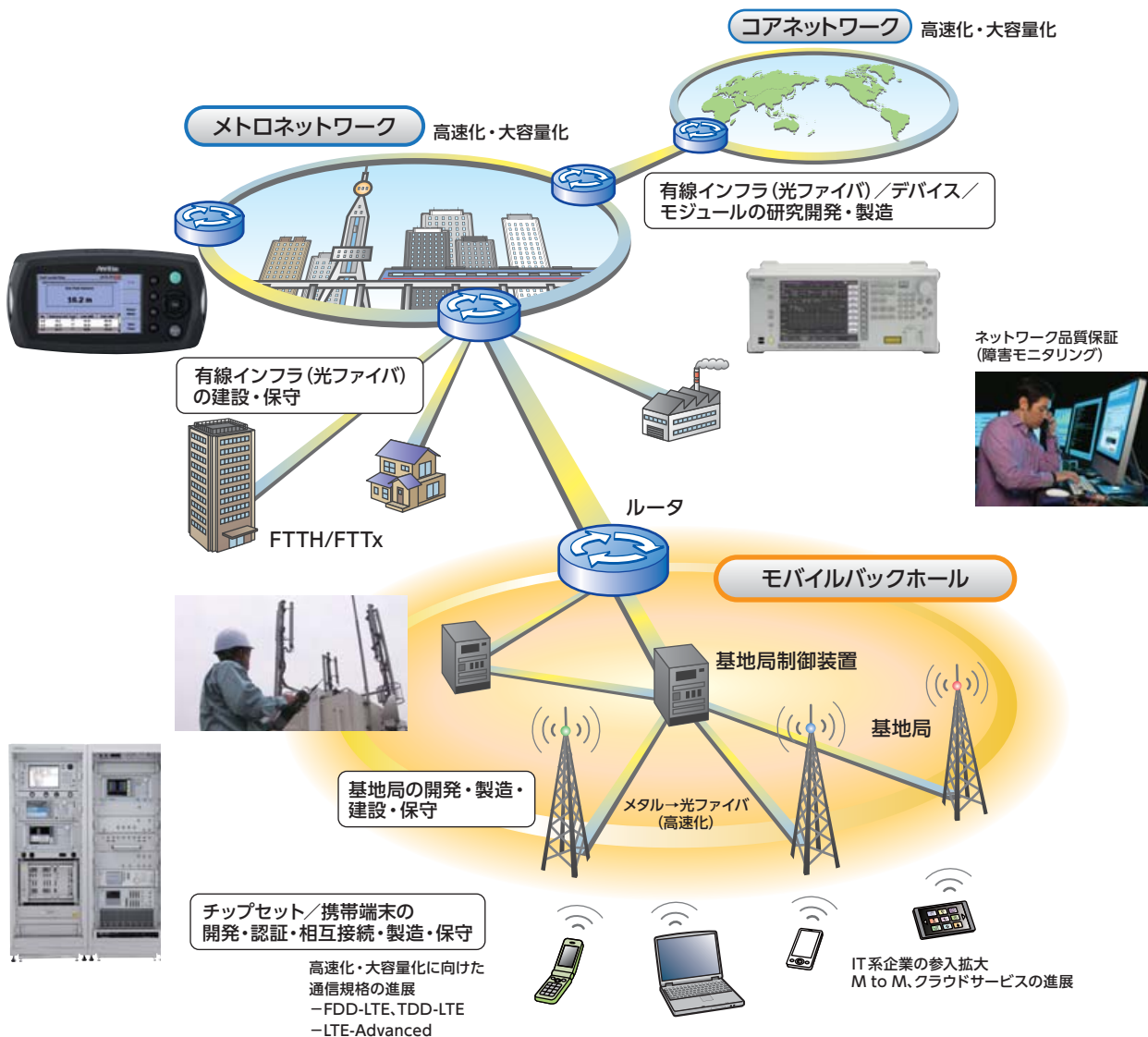
LTEの開発加速や、3G/LTEスマートフォンの普及拡大、社会インフラとしてのモバイルブロードバンドサービスの拡がりによる成長機会を捉え、開発や顧客サポートの強化により競争力を高め、グローバル・マーケットリーダーとしての信頼と評価を獲得していきます。

### ■ ビジネス領域

計測事業は、スマートフォンなどのモバイル市場、無線基地局や光通信などのネットワーク・インフラ市場、さまざまな機器に用いられる通信用電子部品や通信装置などのエレクトロニクス市場でビジネスを展開しています。有線・無線を問わず、

通信の全領域をカバーする技術力と、グローバルに広がる開発・顧客サポート体制を強みに、最先端の市場要求に対応した計測ソリューションで、モバイルブロードバンドサービスの進展に貢献しています。

### 通信ネットワークにおける計測ソリューション



## モバイル計測ビジネスの特徴

計測事業の成長ドライバーであるモバイル計測ビジネスは、研究開発分野と製造分野に区分され、それぞれビジネスの特徴が異なります。

### 研究開発分野

顧客との研究開発ロードマップの共有とTTM (Time To Market) での計測ソリューション提供

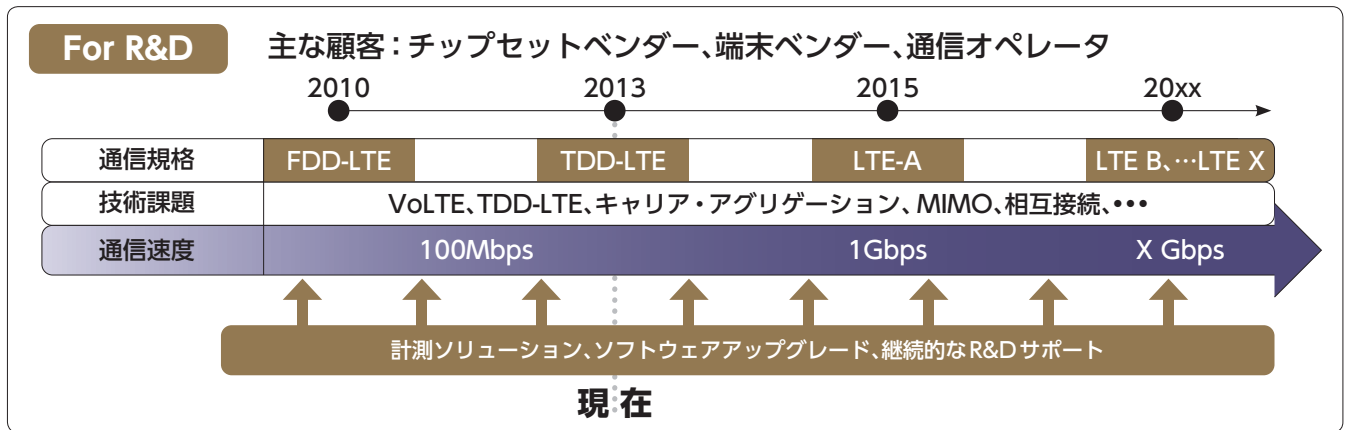
- 顧客との長期にわたる信頼関係構築と、要望に適時・的確に対応する開発・サポート

装置・システムの導入以後も継続するストックビジネス

- 通信規格の更新に合わせたソフトウェアアップグレードや、顧客の開発環境のサポート

先端技術だけでなく、従来技術も含む全ての方式に対応する技術力が必要

- 新しい通信方式の実用化には、従来方式との相互接続性の保証が必須



### 製造分野

顧客の生産能力拡大や、通信技術の進展が需要のトリガー

- 生産工場の増設や生産ラインの拡充、2Gラインから3GやLTEラインへの転換など

更新需要・アップグレード需要獲得による継続的ビジネス

- インストールベースの拡大による安定ビジネス基盤構築

品質・価格・納期に加え、顧客の生産性向上に向けたサポート力が競争上のキーファクター

- 顧客に密着したトラブルシューティングや、生産ラインに合わせた最適化などの開発サポート

### For production

主な顧客：端末ベンダー、モジュール/コンポーネントベンダー、EMS

ソリューション：専用ワンボックス・テスター



2ポート(2台同時計測) 対応  
for 2G/3G/LTE



4ポート(4台同時計測) 対応  
for 2G/3G/LTE&SRW  
(Short Range Wireless)

需要のトリガー

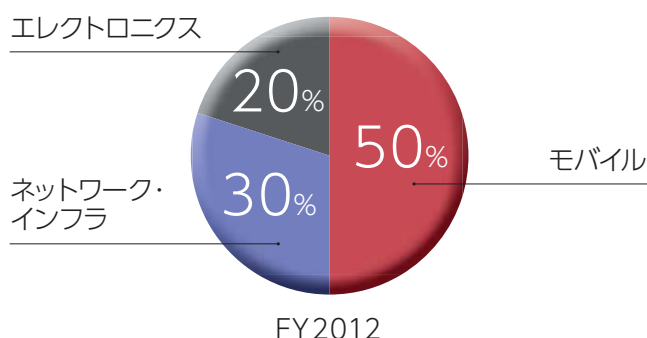
- ① 生産ラインの変更：2G→3G/LTE (FDD、TDD)
- ② 生産能力の拡大
- ③ 生産性・効率の向上
- ④ テストプロセスの統合：3G/LTEとSRW(W-LAN、Bluetooth、etc.)
- ⑤ 新しいプレイヤーの出現

## ■ 2013年3月期(当期) のレビュー

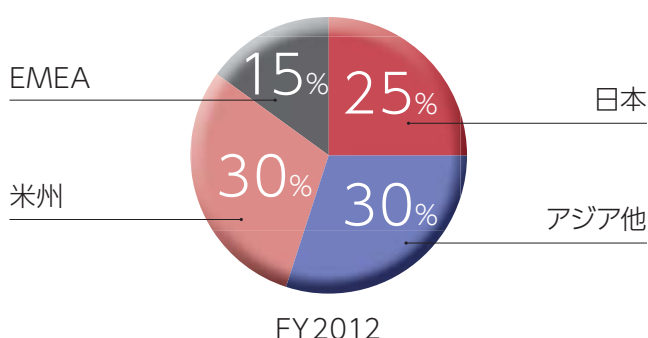
当期は、モバイル市場では上半期に日本の端末ベンダーによるLTE開発・製造関連投資が集中的に行われたほか、アジアを中心とした端末製造用計測器の需要と、北米を中心としたLTEの研究開発用計測器の需要が年間を通じて堅調に推移しました。ネットワーク・インフラ市場では、日本や北米を中心とした基地局ネットワーク増強や、周波数再編に関連した

投資が堅調に推移しました。エレクトロニクス市場は、グローバル経済環境の低迷を受けた顧客の投資抑制により低調でした。その結果、売上高は712億32百万円(前期比1.0%増)となりました。営業利益は、成長ドライバーであるモバイル市場を中心に、将来のビジネス拡大に向けた開発やサポート体制拡充の投資を行いながら、営業利益率21%を確保し、150億48百万円(前期比8.7%増)となりました。

計測事業セグメント別売上比率



計測事業地域別売上比率



## ■ 事業環境と中期経営計画「GLP2014」達成に向けた取り組み



**中長期の成長ターゲット：売上高成長率7%以上、営業利益率20%以上**

中期経営計画「GLP2014」では、2015年3月期の売上高800億円、営業利益率20%を目標としています。その第1年

次となった当期は、計画値の売上高700億円、営業利益140億円に対して順調に達成しました。一方で、GLP2014策定時の想定からさまざまな環境変化が顕在化しています。今期は、環境変化への対応と、開発投資など中長期的な事業拡大に向けた取り組みを強化しながら、GLP2014の第2年次として順調なビジネス拡大を計画しています。



## 事業環境と中期経営計画「GLP 2014」達成に向けた取り組み

	事業環境	達成に向けた主な取り組み
計測	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>LTE開発のスピードが加速</b> TDD-LTE、LTE-Advanced開発が本格化 3G/LTEスマートフォン生産拡大が継続</li> <li>■ <b>社会インフラとしてのモバイルの応用分野拡大</b> IT企業などのモバイルシフト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>モバイル分野の開発投資強化</b> LTE開発加速への対応 スマートフォン開発環境向けの最適ソリューション投入  スマートフォン商用開発用テスト</li> <li>■ <b>グローバルサポート体制の強化</b> グローバルアカウントのサポート強化 新規・潜在顧客の獲得  ユニバーサルワイヤレステストセット (3G/LTE/Wi-Fi/Bluetooth等に対応)</li> </ul>

環境変化の一つは、LTE開発の加速です。日本や北米、韓国を中心に普及が進んでいるFDD-LTE方式は、基礎開発から規格適合試験やオペレータ受入試験に需要の中心がシフトします。これに加え、中国で2013年中のサービス開始が計

画されているTDD-LTE方式の開発が本格化します。また、LTEの進化形であるLTE-Advancedについても研究開発が始まっており、周辺技術を含めたさまざまな研究開発テーマに関連する需要が増大する傾向にあります。

### モバイルR&Dのセグメントと事業機会

	プラットフォーム(コア) 開発	規格適合試験	オペレータ受入試験	スマートフォン商用開発
用途	通信規格開発 チップセット開発	RF 規格適合性試験 相互接続試験	通信キャリア認証試験	アプリケーション開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベンダー 端末ベンダー	チップセットベンダー 端末ベンダー 通信オペレータ	通信オペレータ テストハウス	端末ベンダー アプリケーション開発 事業者
主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FDD-LTE、TDD-LTE</li> <li>● VoLTE (Voice over LTE)</li> <li>● LTE-Advanced関連技術(キャリア・アグリゲーションなど)</li> <li>● MIMO (Multiple-Input and Multiple-Output)</li> <li>● 3G/LTEとSRW (Short Range Wireless) のチップセット一体化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>● データスループット向上</li> <li>● 消費電力など</li> </ul>
市場動向・事業機会	→ No. 1 ポジション堅持	→ → No. 1 ポジション堅持 市場拡大 ポジション向上	→ 市場拡大 ポジション向上	→ 市場拡大 ポジション向上

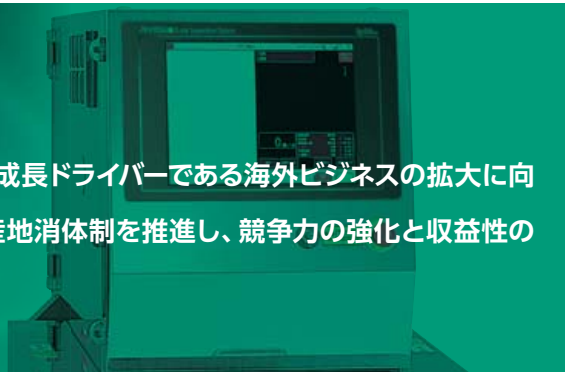
さらに、モバイル技術はスマートフォンやタブレット端末だけでなく、社会インフラの一つとして応用分野が拡大しています。それに伴い、IT関連企業がモバイル分野に進出してきており、ビジネス拡大の機会が増大しています。

こうした動向に対し、モバイル分野を中心とした開発投資や、グローバルなサポート体制の強化に向けた投資を強化し、顧客との強固な関係構築を通じた中長期的なビジネス拡大に向けた取り組みを強化していきます。

一方で、地域別では、当下半年以降、日本のモバイル市場の減速が進んでいます。今期は、モバイル分野で堅調な北米およびアジア市場で日本市場の減速を補うとともに、エレクトロニクス分野で日本企業が強みを持つ電子部品市場を主要ターゲットにビジネス拡大を図ります。

## 産業機械事業

安定的な日本市場でのマーケットポジションの堅持とともに、成長ドライバーである海外ビジネスの拡大に向け、販売体制の整備とともに、現地生産体制の拡充による地産地消体制を推進し、競争力の強化と収益性の向上を目指します。

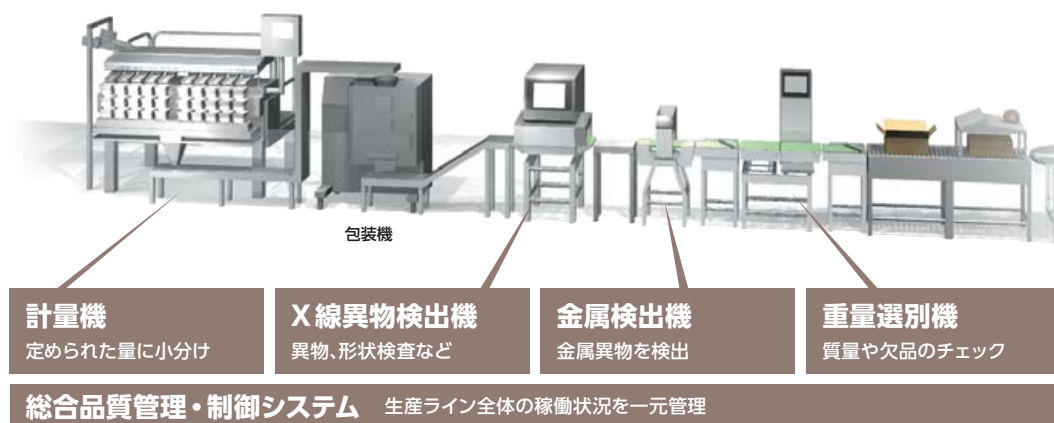


### ■ ビジネス領域

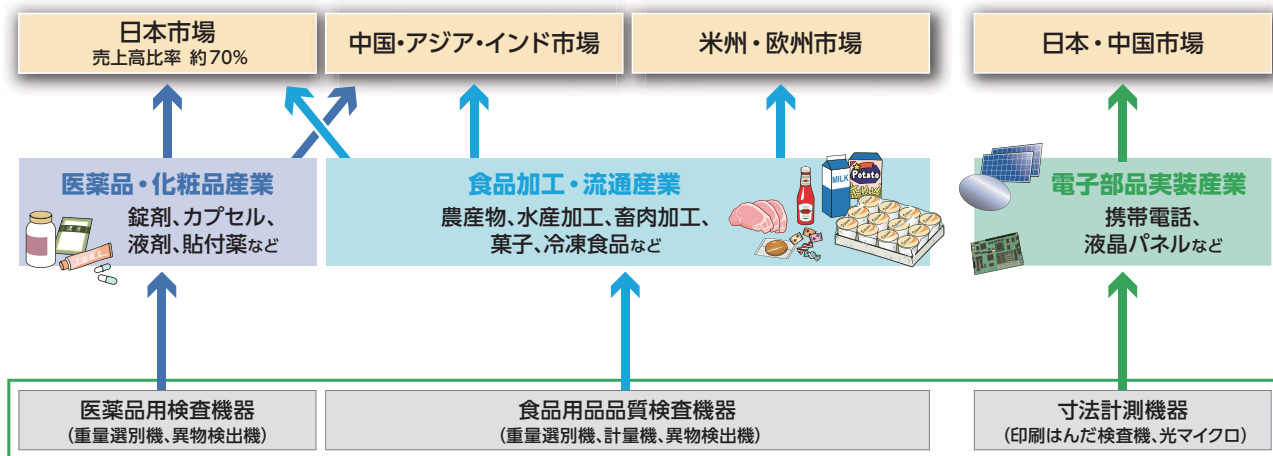
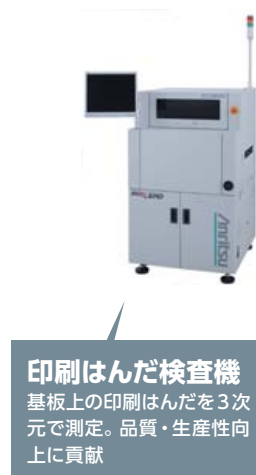
産業機械事業は、食品・医薬品・化粧品産業向けに、混入した異物を検出するX線異物検出機、金属検出機や、製造ラインで高速高精度な計量を行う重量選別機などを主力製品としています。約70%が食品産業向けビジネスであり、景気動

向による需要の変動が比較的小さな市場で安定的な事業展開を行っています。地域別では、日本市場でのビジネスが70%を占めていますが、アジアや北米を中心に、成長が見込まれる海外市場でのビジネス拡大に向けた取り組みを強化しています。

### 食品・薬品などの生産ライン



### 電子部品などの実装ライン



## ■ 2013年3月期(当期) のレビュー

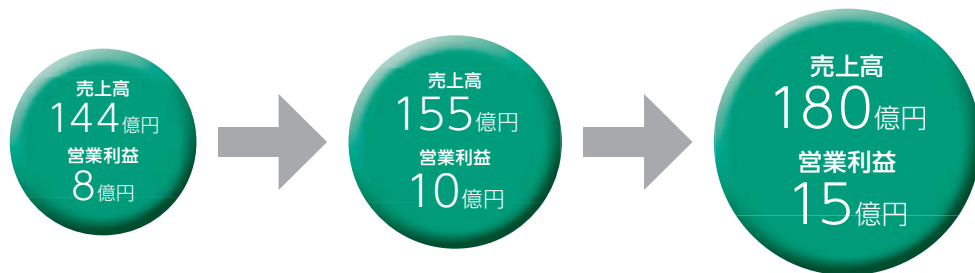
当期は、国内・海外市場ともに食品関連の品質検査需要が堅調に推移した結果、売上高は144億39百万円(前期比1.7%増)となりました。営業利益は、投資・費用管理の効率化などにより8億29百万円(前期比45.4%増)となりました。

また、海外売上高比率は前期と同水準の約30%でしたが、アジアを中心とした現地サプライチェーンの整備など、今後の海外ビジネス拡大に向けた基盤整備を推進しました。

## ■ 事業環境と中期経営計画「GLP2014」達成に向けた取り組み

**中長期の成長ターゲット：売上高成長率7%以上、営業利益率12%以上**

中期経営計画「GLP2014」では、2015年3月期の売上高180億円、営業利益15億円を目標としています。第1年次の当期は、計画値の売上高150億円、営業利益10億円に対して、概ね順調な結果となりました。「GLP2014」の重点戦略である海外ビジネスの拡大に向け、生産・販売・サポートを含めた地産地消体制を推進しています。その中核を担う拠点として、タイ工場での生産を拡充するとともに、巨大市場への成長が期待される中国・上海に工場を開設(2013年7月稼動)しました。品質・コスト・納期など、現地顧客の多様なニーズに応えるため、サプライチェーンの最適化によるビジネス拡大と収益性の向上に向けた取り組みを強化します。



FY2012(第1年次) 実績

FY2013計画

FY2014GLP計画

### 事業環境と中期経営計画「GLP2014」達成に向けた取り組み

	事業環境	達成に向けた主な取り組み
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本市場の需要は安定的</li> <li>■ 北米での食肉検査需要増大</li> <li>■ アジア・新興国における品質検査市場拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル顧客との関係強化</li> <li>■ 地産地消体制の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>● タイ工場の生産拡充</li> <li>● 中国(上海)に工場開設</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>タイ工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上海工場</p> </div> </div>



## その他の事業

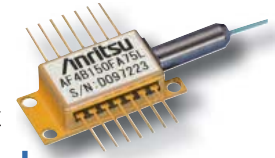
## ■ ビジネス領域

その他事業は、水道施設・河川などの遠隔監視システムや、金融機関・映像配信事業者などの高信頼性ネットワークを支える帯域制御装置などを提供する情報通信事業、高速・大容量通信ネットワークを構成する通信装置に不可欠な光/超高速デバイスを提供するデバイス事業を中心に、物流・厚生サービスなどを含めたビジネスを展開しています。

高速・大容量通信網で—  
通信機器・装置の性能を支える

### 光/超高速デバイス

長距離大容量通信網を達成する通信装置に必要な不可欠なキーデバイスを提供しています。



上水道施設などで—  
遠隔で監視・制御

### 遠隔監視システム

上下水道施設の監視・制御や、雨量などの気象情報、河川などの水位情報の収集に使用されています。



銀行などで—  
通信品質を確保

### 帯域制御装置

企業機関の取引情報など、安定性・確実性が重要な通信ネットワークの信頼性向上に貢献しています。



## ■ 2013年3月期(当期)のレビュー

当期は、情報通信事業で経営構造改革の成果が着実に現れ、デバイス事業の需要が安定的に推移した結果、売上高は90億14百万円(前期比1.7%増)となりました。営業利益は、情報通信事業の収益性改善の一方で、有形固定資産の減損処理費用を計上した影響により、77百万円の損失(前期は4億11百万円の損失、消去および全社費用含む)となりました。

## ■ 中期経営計画「GLP2014」達成に向けた取り組み

中期経営計画では、売上高120億円、営業利益15億円を目標としています。

情報通信事業は、経営構造改革の成果をさらに追求し収益性の向上を図るとともに、海外展開を含めた新ビジネスの開拓など、成長に向けた取り組みを強化します。

デバイス事業は、モバイルブロードバンドサービスの進展に伴い需要の増大が期待される光・超高速デバイスの開発を推進するとともに、光デバイス技術を応用した非通信市場の開拓によるビジネス拡大に取り組めます。